

活動報告

公開講演会・ワークショップ

「#MeToo Movement と米国メディア倫理」

講師：リック・ケニー

(現在米国ポインター・メディア倫理研究所フェロー、元米国ジョージア州オーガスタ大学コミュニケーション学部教授)

司会：秋田 貴美子 (愛知県立大学外国語学部国際関係学科准教授)

日時：2018年12月4日(火) 8:50-12:00

場所：愛知県立大学長久手キャンパス 学術文化交流センター 多目的ホール

主催：愛知県立大学多文化共生研究所

後援：同地域連携センター

使用言語：英語、日本語(双方向の通訳あり)

参加人数：講演 69名、ワークショップ 107名

2017年から急速に騒がれるようになった#MeToo運動とは何か、特にこの運動が活発な米国の#MeToo運動とはどのようなものか、#MeToo運動と米国メディアの関係、そしてメディアの倫理について、米国メディア倫理学研究第一人者であるリック・ケニー氏に講演とワークショップを行ってもらった。

前半の講演は、この運動の歴史、社会・文化的背景に関して。#MeToo運動の定義、この運動の歴史、波及状況、社会的影響、メディアの役割、米国社会・文化的背景、現状についてであった。米国の黒人女性の小さな運動で始まったこの運動は、最新メディアによって一気に火がつき、米国社会全体(エンターテインメント・ビジネス、教育、宗教、経済、政治、スポーツ、医療、軍事)だけでなく、国際社会に広がった。この運動の波及状況の分析・解説、及び、この運動の結末・現状(米国の世論が大きく分断された)、そして、この運動から我々が学べること、日常生活で生かすべき点についてわかりやすい講演が行われた。

後半は、#MeToo運動をより深く理解するための参加型学習のワークショップであった。前半は参加できず、後半だけしか参加できなかった参加者もいたので、講演者は、最初にこの運動に関する概要を改めて講演した。その後、日米社会・文化の相違、メディア上で起こる性的暴行に関するメッセージ、それに対してどのように接するべきかに関する質問を参加者にクイズ形式で投げかけ、参加者はペアもしくはグループで考え発表した。その後、講演者が解説するという参加型学習を行った。

参加者の感想で一番多かった声は、「#MeToo運動とい

う言葉を耳にすることはあったが、実際どういうものが全く知らなかった。情報が社会の中で広がる時のメディアの力に驚いた。メディアを毎日当たり前のように利用している我々は、メディアに情報を流す時に、どのような倫理をわきまえ、受信したメディアの情報をどのように処理すべきかについて学ぶことができた。#MeToo運動に関しての被害者は、女性だけだと思っていたが、まさか男性の被害者がいるとは思わなかった。女性が職場、教育現場、政治社会でセクハラ・性的虐待を体験することは知っていたが、まさか教会などの宗教の場でセクハラを受けるとは知らなかった。セクハラを受けた被害者は、人間関係や職場での地位、立場などもあって、簡単には声を上げられないというセクハラ複雑な仕組みを学ぶことができた。米国と比較して、なぜ日本では、#MeToo運動が発展しないかを考える機会になった。日本でセクハラ被害者が声を出せないのは、文化が閉鎖的なためか、隠れた男尊女卑の文化が根強いからなのかについて改めて考えることができ、非常にためになった。講演者の英語が非常に美しく、わかりやすく、英語の勉強になった。この運動について日本では詳しい情報をあまり得る事ができなかったため、今回この講演を聞いてよく理解することができてよかった。」(文責：秋田貴美子)

